

陸軍

職名	官名	氏名
新京郵政管理局 副局長	郵政管理局副局長	米田清吉
哈爾濱郵政管理局 庶務科長	郵政管理局事務官	石川貞輝
中央郵政職員訓練所	郵政職員訓練所主事	伊賀崎寬次
牡丹江中央郵政局長	郵政局事務官	砂山權九郎

官秘甲第一七二一號

照

昭和十六年六月十二日

第三〇五七號



遞信次官 山田

田龍雄



陸軍次官 木村 兵太郎 殿

滿洲國官吏轉用ノ件

左記滿洲國官吏ヲ當省へ轉用致度候處御差支無之哉何分ノ義至急御回報相成度

追テ滿洲國郵政總局トハ下打合濟ニ有之尙貴方御差支ナクバ發令月日ニ付テハ滿洲國ト直接打合セノコトト致度

記

遞信省

職名	官名	氏名	備考
新京郵政管理局副局長	郵政管理局副局長	米田清吉	昭和十三年六月當省ヨリ推薦セルモノ
哈爾濱郵政管理局庶務科長	郵政管理局事務官	石川貞輝	昭和十二年十二月滿鐵附屬地行政權移讓ニ伴ヒ關東遞信局ヨリ轉入ノモノ
中央郵政職員訓練所	郵政職員訓練所主事	伊賀崎寬次	昭和十年二月當省ヨリ推薦セルモノ
牡丹江中央郵政局長	郵政局事務官	砂山權九郎	昭和九年六月同

遞信省

政務官回付(決行前)

(決行後)

審案
筆記者

陸

軍

保存期限

十年

決裁指定

局長委任

決行指定

原

受領番號

臺受第三口五七號

起元應(課名)

迎候省

件名

迎候省官吏要員トシテ滿洲國現職官吏割愛方ニ關スル件

大臣

委

政務次官

次官

委

參與官

高級副官

代

書記官

主務

副官

主務課長

主務課員

主務局長

大臣官房

受領番號

提出

受領了結

昭和六年七月拾八日

昭和六年七月拾八日

昭和六年七月九日

連帶

局長(部)局

決行後
覽回
(裁決)

局長(部)局

課長

課長

次官ヨリ 關東軍參謀長宛電報 (暗掛)

(陸滿密電)

關參滿電第七〇〇號ニ依ル 逕信省山官吏要員

米田清吉外三名ハ七月十七日附任用發令也

ラレタルニ付承知相成度

陸滿密電 八二

クク

昭和拾六年七月拾九日

老
第三号
歸其

官秘甲第二一八八號

昭和十六年七月十七日



遞信次官 山田 龍 雄



陸軍次官 木 村 兵太郎 殿

滿洲國官吏轉用ノ件

對陸滿密第五四二號 六月三十日

右ヲ以テ當省へ轉用方御承諾ヲ得タル滿洲國郵政管理局副局長米田清吉外三名ニ對シ本月十七日左ノ通發令相成候條御了知相成度

記

米 田 清 吉

任通信事務官 敘高等官四等 三級俸下賜
名古屋郵便局長ヲ命ス

遞 信 省

笹島郵便局長兼務ヲ命ス

伊賀崎

寛次

任遞信局事務官 叙高等官六等 五級俸下賜

大阪遞信局經理部用品課長ヲ命ス

石川

貞輝

任通信事務官 叙高等官六等 六級俸下賜

西宮郵便局長ヲ命ス

砂山權九郎

任通信事務官 叙高等官六等 六級俸下賜

札幌電話局長ヲ命ス

政務官 書記官 回付(決行前)

(決行後)

審案 筆記者

陸

軍

保存期限

受領 番號

臺受第三〇五七號

起元應(課名)

進信者

決裁指定



決行指定



件名

滿洲國現職官吏割愛方ニ關スル件

大臣

委

政務次官 次官

委

參事官 高級副官 主務局長



主務課長



主務副官



主務課員



主務局長

大臣官房

受領了結

昭和

年

月

日

受領了結

昭和

年

月

日

昭和拾六年六月卅日

月

日

日

日

主務課長 受領了結

昭和

年

月

日

昭和拾六年六月卅日

月

日

日

日

決行後 行覽 (裁決)

局長(部)局

連帶

局長(部)局

課長

課長

次官ヨリ遞後次官宛回答 (陸滿密)

六月十二日附官秘甲第一七二號ヲ以テ滿洲國
郵政管理局副局長米田清吉外三名ヲ貴省
官吏要員トシテ割愛方ニ付ハ滿洲國側關
係方面ニ於テ異存無之候ニ付御承知相成度

進テ貴省任用月日承知致度申添候

陸滿密第五四二號

昭和拾六年六月廿日



老 三六五又

秘

電報譯

六月二十八日

午前

午後

二時

四分

著

軍 6.30 後官

發信地

陸

軍

次

官宛

發信者

關東軍參謀長

關參滿電第七〇號

軍務電第六一九號返

陸滿密第四九〇號 = 依ル米田清吉外三名

ヲ遞信省官吏要員トシテ割愛方ノ件異

存ナシ

追ツテ貴方任用日時通報方相煩度

通記あり、後ノ連絡ニモ 30/16

(終)

第五五號

保存期限 三年
 決裁指定
 局長委任
 決行指定

大臣 委		局長 主務		政務 次官		高級 副官		參與官		書記官		審案 審記者	
防衛甲第三七三號		昭和三十二年七月二十七日		昭和三十二年七月十九日		昭和三十二年七月二十七日		昭和三十二年七月二十七日		昭和三十二年七月二十七日		昭和三十二年七月二十七日	
交通		局長		局長		局長		局長		局長		局長	
壹第三三二五號		局長		局長		局長		局長		局長		局長	
軍用資源秘密保護法ノ施行測量、鋸取、複寫ニ關スル件		局長		局長		局長		局長		局長		局長	
陸軍		局長		局長		局長		局長		局長		局長	

拾年保

陸軍

決行(決裁)後
 回覽課名

起元應(課)名

鐵道省

部清

部清

原

學

部清

部清

部清

陸密

大臣ヨリ鐵道大臣へ回答

六月二十六日附鐵軍秘第一八九號ヲ以テ協議ニ係ル首題ノ件當
方ニ於テハ貴條件ニテ承認相成差支無之此段及回答候
昭和拾六年七月廿日

陸密第二一六二號

陸密

副官ヨリ舞鶴要塞司令官長通牒

首題ノ件ニ關シ別紙寫ノ通協議アリタル所ニ差支
無之旨回答セラルルニ付承知相成差支無之旨通牒ス

陸密第二一六二號

昭和拾六年七月廿日



陸

3



陸軍省 第一八九號



鐵軍秘第一八九號

昭和十六年六月廿六日

鐵道大臣 小川 郷太郎

陸軍大臣 東 條 英 機 殿

海軍大臣 及 川 古志郎 殿

(連名各通)



軍用資源秘密保護法ノ立入、測量、錄取、複寫ニ關シ遞信省管船局長ヨリ別紙ノ通承認申請有之候處左記條件ヲ附スルニ於テハ當方支障無之ニ付大阪鐵道局長ニ對スル開示承認ヲ含メ承認ノコトト致度此段及協議候

追而本申請書中記載ノ東舞鶴港驛ハ軍用資源秘密ニ無之ニ付爲念申添候

承認條件

記

一、成果物ハ大阪鐵道局長ノ檢閲ヲ受ケ其ノ取扱方ニ關シ指示ヲ受クルコト

...

...

...

齋藤大引 小田 磯 太流

昭和十八年六月廿八日

...

三三三三



特使

沿第三三四號

昭和十六年六月十八日

遞信省管船局長

尾關將

玄



鐵道大臣 小川鄉太郎殿

立入、測量、錄取、複寫承認願

左記ノ通立入、測量、錄取、複寫致度ニ付承認相成度候也

左記

一 目的 現下船腹ノ不足ニ對處シ港灣荷役力ノ增強並ニ配給^船ノ

合理化ヲ圖ラムガ爲

二 所在地 東舞鶴港 中舞鶴

三 區域 各驛施設及臨港線地域並港内荷役施設、鐵道連絡關係

設備



壹字訂正



遞信省

(7)

四 期 間

自昭和十六年七月一日
至昭和十六年八月三十一日

五 方 法

平面測量

六 使用器具類

ナシ

七 作業者ノ住所氏名

京都府船井郡園部町字小山

京都府技手 龜尾喜一郎

八 作業ノ場所

京都府土木部河港課及京都府舞鶴港務所

九 成果物ノ用途

五部 港灣施設ノ改善資料

十 其ノ他參考トナルベキ事項ナシ

遞 信 省

(7)

控

陸軍

鐵軍祕第一八九號

昭和十六年六月廿六日

鐵道大臣 小川 郷太郎

陸軍大臣 東 條 英 機 殿 (連名各通)

海軍大臣 及 川 古志郎 殿

軍用資源祕密保護法ノ立入、測量、錄取、複寫ニ關シ遞信省管船局長ヨリ別紙ノ通承認申請有之候處左記條件ヲ附スルニ於テハ當方支障無之ニ付大阪鐵道局長ニ對スル開示承認ヲ含メ承認ノコトト致度此段及協議候

追而本申請書中記載ノ東舞鶴港驛ハ軍用資源祕密ニ無之ニ付爲念申添候

記

承認條件

一、成果物ハ大阪鐵道局長ノ檢閲ヲ受ケ其ノ取扱方ニ關シ指示ヲ受クルコト

沿第三三四號

昭和十六年六月十八日

遞信省管船局長

尾關將玄

鐵道大臣 小川 郷太郎 殿

立入、測量、錄取、複寫承認願

左記ノ通立入、測量、錄取、複寫致度ニ付承認相成度候也

左記

一、目的 現下船腹ノ不足ニ對處シ港灣荷役力ノ增強並ニ配船

ノ合理化ヲ圖ラムガ爲

二、所在地 東舞鶴港 中舞鶴

三、區域 各驛施設及臨港線地域並港内荷役施設、鐵道連絡關

係設備

四期 間

自昭和十六年七月三十一日
至昭和十六年八月三十一日

五方 法

平面測量

六、使用器具類

ナ シ

七、作業者ノ住所氏名

京都府船井郡園部町字小山

京都府技手 龜尾喜一郎

八、作業ノ場所

京都府土木部河港課及京都府舞鶴港務所

九、成果物ノ員數用途

五部 港灣施設ノ改善資料

十、其ノ他參考トナルベキ事項ナシ

保存期限

三年

決裁指定

局長委任

決行指定

第五九六號

政務大官回付
參與官
決裁前後
連帶
課名

陸軍

壹第三三八一號

起元廳(課)名

鐵道省

決行(決裁)後
回覽課名

陸軍

軍用資源秘密保護法ノ撮影ニ關スル件

大臣
委

委

政務次官

次官

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官
官房御用掛

主務課員

審案
筆記者

主務局長

受領
提出

昭和十一年七月一日
昭和十一年七月十日

大官房

受領
了結

昭和十一年七月十八日
昭和十一年七月廿二日

連帶

局長

決行(決裁)後
回覽

局長

長課

長課

部清

部清

部清

部清

部清

陸密

大臣ヨリ鐵道大臣へ回答

六月三十日附鐵軍總第一九三號ヲ以テ鐵道ニ係ル首題ノ件當
方ニ於テハ貴條件ニテ許可相成テ支無之此段及回答候

陸密第二二四一號 昭和拾六年七月拾九日

陸密

副官ヨリ 下關長崎要塞司令官及陸

軍運輸部長へ通牒

首題ノ件ニ關シ別紙寫ノ通協議アリタル所一許可
差支無之旨回答セラレタルニ依テ知相成度依命通
牒ス

陸密第二二四一號

昭和拾六年七月拾九日



五印



鐵軍秘第一九三號

昭和十六年六月三十日



鐵道大臣 小川 郷太

陸軍大臣 東條 英機 殿

海軍大臣 及川 古志郎 殿

(連名各通)

軍用資源秘密保護法ノ撮影ニ關シ別紙願出有之候處左記條件ヲ附
スルニ於テハ支障無キモノト被認候條許可ノコトト致度此段及協
議候

記

許可條件

一、努メテ構内施設物ヲ撮影セザルコト



三、撮影ノ成果物ハ其ノ公開以前ニ於テ廣島鐵道局長ノ檢閲ヲ經

ルコト

前項ノ檢閲ヲ受ケタルモノハ其ノ公開ノ際「鐵道省檢閲済」

ト表示スルコト

三、右成果物ニシテ公開不適當ト認めラルルモノアルトキハ之ヲ

沒收ス

鐵道大臣 小田 謙太郎

昭和十一年十一月二十日



通小南 三
二二

立入撮影許可願

下關運輸事務所長

下關驛長

立入撮影許可願

本籍 岡山縣後月郡西江原町二〇八ノ第一地

住所 小倉市極津字寫野口

職業 朝日新聞西郡本社専務取締役



讓 二



年齡 五十六歲

昭和十六年五月三十一日

鐵道大臣 小川 郷太郎 殿

左記ノ通り立入寫眞撮影致度ニ付許可相成候候也

東京市役所

左記

一、目的 新聞掲載ノ爲

二、工場事業場其他ノ設備ノ所在地及名稱 下関駅、幡生駅、吳駅、宇品駅、廣島駅、徳山駅

三、區 域 構内全般トス

四、日 時 自昭和十六年六月一日 至昭和十七年五月卅一日 一ヶ年間

五、方 法 寫眞撮影

六、使用器具ノ名稱 ニュークラツパ 名刺 刑土

七、作業者ノ住所 氏名及年齢 小倉市南下富野昭ヶ丘 荒谷久之助方
伊久茂 視(年齢三十才)

八、作業ノ場所 小倉市砂津朝日新聞西部本社

九、成果物ノ負數及其用途 新聞掲載 一ヶ年 三百枚

十、其他参考トナルベキ事項

下關運輸事務所長



下關驛長



立入撮影許可願

本籍 岡山縣後月郡西江原町二〇八ノ第一地

住所 小倉市砂津字常野口

職業 朝日新聞社本社事務取締役



讓 二



年齢 五十六歳

昭和十六年五月三十一日

鐵道大臣 小川 郷太郎 殿

左記ノ通り立入寫眞撮影致度ニ付許可相成候候也

左記

一、目的 新聞掲載ノ爲

二、工場事業場其他ノ設備ノ所在地及名稱 下関駅、幡生駅、吳駅、宇品駅、廣島駅、徳山駅

三、區 域 構内全般トス

四、日 時 自昭和十六年六月一日 至昭和十七年五月卅一日 一ヶ年間

五、方 法 寫眞撮影

六、使用器具ノ名稱 ニュークラップ パルマス 大陸型

七、作業者ノ住所 氏名及年齢 小倉市砂津富野口朝日新聞社内

新海 溥 (年齢 三十一才)

八、作業ノ場所 小倉市砂津朝日新聞西部本社

九、成果物ノ負數及其用途 新聞掲載 一ヶ年 三百枚


十、其他參考トナルベキ事項

下關運輸事務所長 

下關驛長 

立入撮影許可願

本籍 岡山縣後月郡西江原町二〇八ノ第一地

住所 小倉市  野口

職業 朝日新聞西日本社事務取締役

 原田

讓 二



年齢 五十六歳

昭和十六年五月三十一日

鐵道大臣 小川 郷太郎 殿

左記ノ通り立入寫眞撮影致度ニ付許可相成候候也

朝日新聞社

左記

一、目的 新聞掲載ノ爲

二、工場雪業場其他ノ設備ノ所在地及名稱 下関駅 幡生駅 吳駅 宇品駅 廣島駅 徳山駅

三、區 域 構内全般トス

四、日 時 自昭和十六年六月一日 至昭和十七年五月卅一日 一ヶ年間

五、方 法 寫真撮影

六、使用器具ノ名稱 ニュークラツプ 名利型

七、作業者ノ住所 氏名及年齢 下関市王司町一〇六番地

武田恭平 (年齢二十一才)

八、作業ノ場所 小倉市砂津朝日新聞西部本社

九、成果物ノ負數及其用途 新聞掲載 一ヶ年 三百枚

十、其他ニ考トナルベキ事項

立入撮影許可願

本籍 岡山縣後月郡西江原町二〇八ノ第一地

住所 小倉市破津字新野口

職業 朝日新聞西郡本社専務取締役



讓 二

年齢 五十六歳



昭和十六年六月十五日

鐵道大臣 小川 郷太郎 殿

下岡 五
五
二二

左記ノ通り立入寫眞撮影致度ニ付許可相成度候也

左記

一、目的

新聞掲載ノ爲

二、工場事業場其他ノ設備ノ所在地及名稱

門司驛、大里驛、門司港驛、小倉驛、吉塚驛、鳥栖驛、外濱驛、東唐津驛、唐津驛、西唐津驛、長崎驛、長崎港驛、久原驛、佐世保驛、伊萬里驛

三、區域

構内全般トス

四、日時

昭和十六年七月一日 - 昭和十七年六月卅日 一ヶ年間

五、方法

寫眞撮影

六、使用器具ノ名稱

ニュークラップ大名利型、バルモス大陸型

七、作業者ノ住所氏名及年齢

小倉市砂津字富野口 朝日新聞西部本社内

新海

（年齢三十六才）

八、作業ノ場所

小倉市砂津 朝日新聞西部本社

九、成果物ノ員數及其用途

新聞掲載 一ヶ年 三百枚

十、其他參考トナルベキ事項

立入撮影許可願

本籍 岡山縣後月郡西江原町二〇八ノ第一地

住所 小倉市砂津字高野口

職業 朝日新聞西郡本社専務取締役



年 齡 五 十 六 歲



昭和十六年六月十五日

鐵道大臣 小川 郷太郎 殿

左記ノ通り立入寫眞撮影致度ニ付許可相成度候也

左記

一、目的 新聞掲載ノ爲

二、工場、農場、其他ノ設備ノ所在地及名稱
門司驛、大里驛、門司港驛、小倉驛、吉塚驛、鳥栖驛、外濱驛、東唐津驛、唐津驛、西唐津驛、長崎驛、長崎港驛、久原驛、佐世保驛、伊萬里驛

三、區域 構内全般トス

四、日時 昭和十六年七月一日 - 一ヶ年間
昭和十七年六月卅日

五、方法 寫眞撮影

六、使用器具ノ名稱
ニエークラツア大名刺型、
七、作業者ノ住所
小倉市南下富野昭ヶ丘ハミ。番地

伊久茂 親 (印) 年 31 不

八、作業ノ場所 小倉市砂津 朝日新聞西部本社

九、成果物ノ員數及其用途 新聞掲載 一ヶ年 三百枚

十、其他參考トナルベキ事項

54

立入撮影許可願

本籍 岡山縣後月郡西江原町二〇八ノ第二地

住所 小倉市砂津字野口

職業 朝日新聞西報本社事務取締役

原田

讓二

年齢 五十六歳

昭和十六年五月三十一日

鐵道大臣 小川 郷太郎 殿

左記ノ通り立入寫眞撮影致度ニ付許可相成候候也

朝日新聞社

左記

一、目的 立的 新聞掲載ノ爲	二、工場雪業場其他ノ設備ノ所在地及名稱 長崎駅 長崎港駅	三、區 域 構内全般トス	四、日 時 自昭和十六年六月一日 至昭和十七年五月卅一日 一ヶ月年間	五、方 法 寫真撮影	六、使用器具ノ名稱 オートプレスミルタ	七、作業者ノ住所 氏名及年齢 長崎市外浦町三八 森 幸 十 (年齢二十五才)	八、作業ノ場所 長崎市外浦町三八朝日新子長崎通信局	九、成果物ノ負數及其用途 新聞掲載 一ヶ月 三百枚	十、其他參考トナルベキ事項
----------------------	---------------------------------	--------------------	--	------------------	------------------------	---	------------------------------	------------------------------------	---------------

藤本文具店製

別紙

控

陸軍

鐵軍祕第一九三號

昭和十六年六月三十日

鐵道大臣 小川 郷太郎

陸軍大臣 東 條 英 機 殿 (連名各通)

海軍大臣 及 川 古志郎 殿

軍用資源祕密保護法ノ撮影ニ關シ別紙願出有之候處左記條件ヲ附ス
ルニ於テハ支障無キモノト被認候條許可ノコトト致度此段及協議候

記

許可條件

一、努メテ構内施設物ヲ撮影セザルコト

二、撮影ノ成果物ハ其人公開以前ニ於テ廣島鐵道局長ノ檢閲ヲ經ル

二一

コト

二前項ノ檢閲ヲ受ケタルモノハ其ノ公開ノ際「鐵道省檢閲済」ト
一表示スルコトヲ以テ檢閲済トシテモヨク

三右成果物ニシテ公開不適當ト認メラルモノアルトキハ之ヲ没

收ス

此ニ就テハ支那鐵道手帳ノ檢閲済檢査印ハ此ノ意旨出納及檢査
事務官檢査印等ヲ以テシテ檢閲済ノ意旨ヲ示シ檢査印等ヲ以テ

滿軍大臣 張 作 霖

陸軍大臣 段 祺 瑞

鐵道大臣 朱 啟 鈞

田中十六平 六月二十日

鐵道部第一二三號

照錄

封

軍

陸軍
下要

立入撮影許可願

本籍 岡山縣後月郡西江原町二〇八ノ第一地

住所 小倉市砂津字富野口

職業 朝日新聞西部本社事務取締役
原田 讓 二

年齢 五十六歳

昭和十六年六月十五日

鐵道大臣 小川 郷太郎 殿

左記ノ通り立入寫眞撮影致度ニ付許可相成度候也

左記

一、目的 新聞掲載ノ爲

二、工場事業場其他ノ設備所在地及名稱
門司驛、大里驛、門司港驛、小倉驛、吉塚驛、烏栖驛、外濱驛、東唐津驛、唐津驛、西唐津驛、長崎驛、長崎港驛、久原驛、佐世保驛、伊萬里驛

- | 三區 | 域 | 構内全般トス |
|-------------------|---|---|
| 四日 | 時 | 昭和十六年七月一日一ケ年間
昭和十七年六月卅日 |
| 五方 | 法 | 寫眞撮影 |
| 六、使用器具ノ名稱 | | ニュークラップ大名刺型、バルモス大陸型
ニュークラップ大名刺型 |
| 七、作業者ノ住所
氏名及年齢 | | 小倉市砂津字富野口 朝日新聞西部本社内
新海 溥（年齢三十六歳）
小倉市南下富野昭ケ丘八三〇番地
伊久 茂 視（年齢二十歳） |
| 八、作業ノ場所 | | 小倉市砂津 朝日新聞西部本社 |
| 九、成果物ノ員數及其ノ用途 | | 新聞掲載 一ケ年 三百枚 |
| 十、其他参考トナルベキ事項 | | |

- | 三、區 域 | 構内全般トス |
|-------------------|---|
| 四、日 時 | 自昭和十六年六月三十一日一ケ年間
至昭和十七年五月三十一日一ケ年間 |
| 五、方 法 | 寫眞撮影 |
| 六、使用器具ノ名稱 | ニユークラツプ名刺型
ニユークラツプバルモス 大陸型
ニユークラツプ名刺型 |
| 七、作業者ノ住所
氏名及年齢 | 小倉市南下富野昭ヶ丘 荒谷久之助 方
伊久茂 視(年齢二十歳)
小倉市砂津富野口 朝日新聞社内
新海 溥(年齢三十六歳) |
| 八、作業ノ場所 | 下關市王司町一〇六番地
武田恭平(年齢二十歳) |
| 九、成果物ノ員數
及其ノ用途 | 小倉市砂津朝日新聞西部本社
新聞掲載 一ケ年 三百枚 |
| 十、其ノ他参考トナルベキ事項 | |

長
要
陸
軍

立入撮影許可願

本籍 岡山縣後月郡西江原町二〇八ノ第一地
住所 小倉市砂津字富野口

職業 朝日新聞西部本社專務取締役
原田讓二
年齡 五十六歲

昭和十六年五月三十一日

鐵道大臣 小川 郷太郎 殿

左記ノ通り立入寫眞撮影致度ニ付許可相成度候也

左記

一、目的 新聞掲載ノ爲

二、工場事業場其他ノ設備ノ所在地及名稱 長崎驛外長崎港驛

三、區	域	構内全般トス
四、日	時	自昭和十六年六月一日 至昭和十七年五月卅一日 一ヶ月間
五、方	法	寫眞撮影
六、使用器具ノ名稱		オートプレスミノルタ
七、作業者ノ住所 氏名及年齢		長崎市外浦町三八 森 幸 十 (年齢二十五歳)
八、作業ノ場所		長崎市外浦町三八朝日新聞長崎通信局
九、成果物ノ員數及其用途		新聞掲載 一ヶ月 三百枚
十、其他參考トナルベキ事項		

極秘

閱

報通

防

七月廿二日

印

七五

調六極祕合第二七一〇號

昭和十六年七月十一日

陸軍次官殿

馬來國防寫真送付ノ件

今般在新嘉坡鶴見總領事ヨリ同地英政府情報局作成ニ係ル宣傳用
寫真十八葉送付越セルニ付御參考迄別添送付ス

本信送付先 陸軍、海軍各次官

陸軍部
八月廿二日
情報部

附屬物同封

外務次官

陸軍部
昭和十六年七月十二日
大佐

陸軍部
昭和十六年七月十二日
軍務課

外務省
陸軍部

陸軍部
10.7.10
662
防衛課

外務省

七月廿日

陸軍省人事局

急

海人召第二號ノ五一三

昭和十六年七月十日

拾年保

昭和十六年七月十四日 午前 海軍省 官

昭和十六年七月十三日 補兵備課

昭和十六年七月十二日 補任課

海軍省人事局

陸軍省人事局

豫備員令施行規則中改正ニ關スル件通知

改正相成候ニ付貴省海軍豫備員ニ對シ周知方可然御取

第十九條ニ依ル屆書ハ本年八月期日經過後ト雖モ送付

ニ有之候

奉省ニ該考者ナシ

報ヲ本ノタリ

報ヲ得

(終)

官房

山中

陸軍省兵備局兵備課 今林中依

本件官房ニ於テ取計ハレ度

兵備課申中

補任課

本件貴課ニ於テ取計ニ相付度

（別紙）

海軍省令第二十四號

海軍豫備員令施行規則中左ノ通改正ス

昭和十六年七月十日

海軍大臣 及 川 古志郎

第九條中「十一月一日」ヲ「六月一日」ニ。 「十二月末日」ヲ「七月末
日」ニ改ム

第十五條中「三月末日」ヲ「九月末日」ニ改ム

第十九條中「五月一日」ヲ「六月一日」ニ。 「十二月末日」ヲ「七月
末日」ニ改ム

第二十條中「十一月一日」ヲ「六月一日」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日より之ヲ施行

(参照)

昭和九年十月十日 海軍省令第十號海軍豫備員令施行規則抄錄

第九條 海軍豫備員（召集中ノ者及退役者ヲ除ク）ハ毎年十一月十日

現在ニ就キ現状届（第一様式ノ二）ヲ十二月末日迄ニ到達スル如ク豫備士官ニ在リテハ海軍省人事局長ニ豫備准士官以下ニ在リテハ在籍鎮守府ノ海軍人事部長ニ送付スベシ

第十五條 海軍豫備員ニシテ各科豫備少尉ニ任用スベキモノアルトキ

ハ在籍鎮守府司令長官ハ其ノ候補名簿（第四様式）ヲ調製シ毎年三月末日迄ニ到達スル如ク之ヲ海軍大臣ニ進達スベシ

第十九條 令第三十八條ニ依ル任用又ハ進級ニ關スル届書（第十一様

式）ハ十一月十日ノ所屬ニ就キ之ヲ調製シ十二月末日迄ニ到達スル如ク提出スベシ

第二十條 海軍豫備員ノ實役停年計算期日ヲ毎年十一月一日トス

令報案

海軍豫備員令施行規則(昭和九年十月十九日海軍省令第十号) 中廢期の畢ニ関シ

左記ノ通改正(昭和九年七月十日海軍省令第三十四号) セラレタル旨海軍省ヨリ通牒アリ

追テ規則第九條及第十九條ニ依ル忌書ハ本年ハ期日経過後ト

雖モ送付(提出)セシ度海軍省ニ高知ニ付申添フ

左記

ハ改正前ノ期トス

第九條 海軍豫備員(召集中ノ者及退役者ヲ除ク)ハ毎年

六月一日 現在ニ就キ現狀届(第一様式ニ)ヲ
七月末日迄ニ到達

スル如ク豫備士官ニ在リテハ海軍省人事局長ニ豫備准士官

以下ニ在リテハ在籍銀守府海軍人事部長ニ送付ス(シ)

第十五條 海軍豫備員ニシテ各科豫備少尉ニ任用ス(キエールト

キハ在籍銀守府司令長官ハ其ノ候補名簿(第四様式)ヲ

調製シ毎年九月末日迄ニ到達スル如ク之ヲ海軍大臣ニ送達ス(シ)

第十九條 令第三十八條ニ依ルニ任用又ハ進級ニ関スル届書(第

十様式)ハ六月一日ノ所屬ニ就キ之ヲ調製シ七月末日迄

ニ到達スル如ク提出ス(シ)

第二十條 海軍豫備員ノ實績停年計算期日ヲ毎年

六月一日
七月末日
トス

會

報曰

昭和六年七月十四日

一、當由介、調判、供官、會報、八元、政務、官室、於、行、
尚、揚、州、愛、更、言、揚、合、其、都、度、指、不、久

二、總、理、高、建、築、課、附、候、軍、屬、組、野、定、勝、

如、者、七、月、十、三、日、前、十、一、時、十、分、頃、候、地、測、量、部、製、版、室、
藥、品、火、災、條、逸、早、く、建、築、課、備、附、一、曰、ス、ト、ル、消、火、
器、ヲ、携、行、使、用、シ、テ、測、量、部、側、ニ、協、力、シ、速、ク、之、ヲ、消、止、
メ、且、迅、速、機、敏、ニ、動、作、シ、對、シ、賞、詞、金、一、封、ヲ、附、與、セ、ラ、レ、
タ、リ、

三、豫、備、役、候、軍、中、將、鈴木、元、長、閣、下、本、十、四、日、夜、十、去、セ、ラ、ル

追、テ、告、別、式、ハ、第、十、六、日、午、三、時、ヨリ、三、時、迄、自、宅、板、橋、區、
豊、玉、北、四、丁、目、三、十、番、地、ニ、於、テ、行、ハ、レ、タ、リ、

(妻 鈴 木 七 次 八)

④ 今般海軍豫備員令施行規則改正セラレタル付指不ス
ハ×事項アルヲ以テ本省職員ニシテ海軍豫備員タル資格
ヲ有スルモノアルハ其官(職)氏名ヲ各同課毎ニ取纏メ
明十日會報將送ニ官所文書掛ニ通報アリ度

海軍豫備員令

第九條

海軍豫備員（航空関係ノ豫備武官ヲ除ク）ノ任用

又ハ採用ハ左ニ掲グル資格ヲ具スル者ニシテ海軍ニ於テ其

必要ト認ケル教育ヲ受ケ試験ニ合格シ海軍豫備員ニ

適ストト認メタルモノニ就キ之ヲ行フ但シ戰時又ハ事變

ノ際ニハ教育又ハ試験ヲ省略スルニ得

一、豫備少尉ニ在リテハ文部省直轄高船專門學校航

海科卒業者又ハ水産講習所遠洋漁業卒業者

二、豫備機関少尉ニ在リテハ文部省直轄高船專門

學校機関科卒業者

三、豫備一等兵曹及豫備一等機関兵曹ニ在リテハ海軍豫

備練習生ニシテ文部省直轄高船學校ヲ卒業シ

タルモノ

四、豫備三等水兵、豫備三等機関兵及豫備三等工兵
兵に在りたる海軍豫備補習生、教程ヲ修了したる者

昭和十六年七月十四日冲之会教令四項

海軍予備員資格者一件

昭和十六年七月十九日官房奉與掛

首題一件ニ該當スル者無シ

文書掛出 中

陸軍

會報ノ件回答

昭和拾六年七月拾五日

陸軍大臣官房通信掛

文書掛御中

七月十四日會報中第四項ニ関スル件當掛ニ
該當者無之ニ付回答ス（海軍豫備員ニ関スル件）

陸軍

海軍豫備員令施行規則改正ニ関スル件

昭和拾六年七月拾六日

功績調査部



官房文書扱御中

七月十四日附會報ニ依ル首題ノ

件該當者ナシ

右通報ス

陸軍

海軍豫備員二箇件

七月十六日

馬政課

官房文書掛御中

首題件該當者無之付

七月十四日(三)會報ノ五項

海軍豫備員ノ件該當

者ナシ

衣糧課

官房文書掛

御中

海軍豫備員二箇之件

七月十六日

馬政課

官房文書掛 御中

十四日會報(二)第四項之依儿首題之件該當者無之付
通報ス

每月保護馬聯合鍛鍊 (鍛鍊員代表) 各地打總會代表
 打毬 技 各地打總會代表
 地域對抗障礙飛越競技 各地域代表
 綜合騎乘競技 (全國軍用保護馬) 鍛鍊員代表
 鞭曳競接 向 右
 駝載競技 向 右
 野馬追 (福縣相馬地代表)
 將校廣地騎乘 全軍代表
 下士官乘馬格闘 全軍代表
 軍隊ノ戰闘教練 全軍代表
 褒賞授與 全軍代表
 閉會式
 備考 雨天ノ場合ハ母衣引ハ供覽セズ

昭和拾六年七月拾六日

國防献金品掛



官房文書掛御中
海軍予備員該当者ナシ

陸軍

海軍之豫備員又ハ此見格ヲ
存心者調査ノ件

昭和拾六年七月拾六日

陸軍省人事局補任課

官房文書掛下

記

前題ノ件ノ調査者十一人

陸軍

海軍豫備員之資格ヲ有スルモノニ關スル件

昭和拾六年七月拾六日

陸軍大臣官房統計係

文書掛御中

首題一件 當係ニ關スル者無シ



書款林

海軍豫備員

外地勤務者姓名

該書七百十

海軍豫備員之資格ヲ有スル者一件

七月拾五日

書記官室



首題一件該書七百十

外

昭和拾六年七月拾六日

陸軍恤兵部

陸軍大臣官房文書掛

海軍豫備員タル資格者無之ニ付通報又

陸軍

辨外

海軍予備員有資格者ニ関スル件 同答

七月十五日

官房御中

工政課

七月十四日念報(二)第四項ニ依ル首題ノ件 該當者ナシ

陸軍

號外

海軍豫備員會報 四件通報 同答

昭和十六年七月十六日

人事局 恩賞課

警備局 燃料課

大臣官房 御中
大臣官房 文書掛 御中

首題ノ件ニ關シ當課ニハ該當者無ク其ノ付通報ノ當課該号者
七月十四日 某會報
無キニ付承知相成度

陸軍

陸軍

會報第四項回答

昭和十六年七月十六日

整備局燃料課

官房文書掛御中

七月十四日第二會報第四項二件、當課該号者
無キ三付、承知相成度

海軍豫備員一團三〇件

昭和拾六年七月拾五日

軍務局軍務課 穴田

官房文書掛込中

七月十日會報(二)第一項二紙二首題一紙

海軍者母之付通作不

陸軍



陸軍

海軍豫備員令施行規則改正二箇不件

昭和十六年七月十五日

兵 備 課 (平井)

官房文書掛御中

省題ノ件該當者無之

昭和十六年七月十五日會報(四)ニ依ル
海軍豫備員



豫備役海軍一等主計兵、小使米山勇治

豫備員、アラス

陸軍

七月十四日附會報第四項之圖三件

昭和拾六年七月拾六日

防衛課

官房文書掛御中

首題 一件該當者無之

号外

海軍多備員名道其者一也

昭和十一年七月十九日

陸軍省陸務室

陸軍大臣官房

文書掛 中

首題 件 当室ニハ換当者無之

陸軍

陸軍

海軍豫備兵二箇の件回答

昭和十六年七月十五日

陸軍省報道部



官房文書御中

首題一件當部ニハ該省者ナシ

7

極秘

①

軍務部 航空部 陸軍部 海軍部 陸軍省 海軍省 遞信省
七月十九日

第五九號

特年保

陸軍部 陸軍省 海軍省 遞信省

米二極祕合第二七一號

昭和十六年七月十一日

陸軍次官殿

南米歐洲間交通連絡状態ニ關スル件

豫テ本件ニ關シ關係在外公館長ニ對シ查報方訓令相成居リタル處
今般在亞爾然丁富井大使ヨリ別添寫ノ通り電報越セルニ付御參考
迄右茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍省、海軍省、遞信省

陸軍部 昭和十六年七月十二日 午後 陸軍省 官

陸軍省 16.7.15 1108 軍務課

外務次

別紙添附

官

外務省



七月四日着松岡外務大臣宛在亞富井大使來電寫

南米歐洲間交通連絡狀態ニ關シ左ノ通り

(一) 當地、歐洲間就航「ライン」ハ西班牙 TARRA LINE ノミナリ配船毎

月一隻ハ二隻當地ト「リオデジャネイロ」經由「カジス」「ピル
バオ」又ハ「バルセロナ」間

當地出帆日ハ入港後發表ス航海日數約二十一日ナリ

(二) 右「ライン」ノ乗船切符ハ往復トモ入手可能ナリ

(三) 當地ヨリ獨「コンドル」機ニテ「リオデジャネイロ」迄「リオデ
ジャネイロ」ニテ伊太利「ラテイ」機ニ聯絡羅馬迄週一回ノ便ア
リ當地羅馬間ハ「レシフェ」「ピリヤ、シスネロス」「カーボ、
ベルテ」「セビージャ」經由ニテ航空日數ハ四日間ニシテ客席毎
機一名ノミナリ

第六號

七月廿日



報通

中島



秘

拾年保

三二五

米二秘合第二七二四號

昭和十六年七月十二日

陸軍次官殿

外務次官

秘露一般政情（五月分）ニ關スル件
 本件ニ關シ今般在秘露坂本公使ヨリ別添寫ノ通り報告越セルニ付
 御参考迄右玆ニ送付ス
 本信送付先 陸軍省、海軍省



紙添附



外務省

寫

昭和十六年六月二日

在祕露

特命全權公使 坂本龍起

外務大臣 松岡洋右 殿

一般政情報告（五月分）提出ノ件

右本年五月分別紙提出スルニ付御査閲相成度シ

外務省

(一) 一般政狀及外交

客年度議會兩回ニ亘ル延長ヲ重ネタル末本年一月末日ヲ以テ閉會シ本年度議會ハ來ル七月二十八日國際日ヲ以テ召集セラルルコトト爲リ居リ旁々當月ハ政治季節外ニシテ内政關係ニ於テハ特筆スヘキ事項ナク一般ニ平穩ニ經過セリ然ルニ外交關係ニ於テハ北隣「エクアドル」トノ國境問題ニ關シ六月八日米伯亞三國政府ヨリ突如調停方申出アリ之レニ對シ「エクアドル」カ全面的^無條件ニ受諾セルニ反シ祕露側ニ於テハ條件附即チ「ヘル」カ獨立以來領有シ來レル地域ヲ除外シ兩國間ノ一般雰圍氣ヲ改善スルコトニ關シテハ調停ノ受諾差支ヘナキ旨回報スル處アリタルカ右三國ハ更ニ二十日公文ヲ以テ三國ノ意圖ハ關係國代表者ノ急速集合ヲ求メ紛争問題ノ決定的ニシテ公平ナル解決ヲ促サンカ爲具體的提案ヲ爲スニアル旨ヲ強調シ來リ祕露カ保留セル條件ニ付テハ何等言及スル處ナク「ヘル」ノ言分ヲ無視セル觀アリタル爲祕露政府

及一般輿論ハ右ヲ以テ三國殊ニ本問題ノ主動者タル北米ノ「ベル
」側ニ對スル壓迫ナリト解シ國論尠ナカラス沸騰シ種々ノ愛國
示威運動ノ展開ヲ見タリ政府ハ數次閣議ヲ催シ軍部及議會方面ノ
代表者モ召集熟議ノ結果右三國ノ第一回公文ニ對シ二十三日附公
文ヲ以テ關係國代表集合會談ノ形式ニ依ル調停ハ祕露カ常ニ拒絕
シ來リタル處ニシテ刻下ノ兩國ヲ蔽フ空氣ノ下ニ於テ急據係争問
題ノ論議ニ移ルコトハ却ツテ兩國關係ヲ惡化スヘク此際最モ緊要
ナルハ兩國間ニ靜謐ト協調ノ空氣ヲ先ツ以テ讓成スルコトニアリ
祕露ハ國境地帶ノ現狀維持ヲ基礎トシテ之レヲ保障スヘキ意味ノ
外交文書交換ノ用意アル旨ヲ回答シ係争地帶ノ主權即チ根本問題
ニ觸レルコトハ極力回避セントスル態度ヲ示セリ「エクアドル」
ノ主張スル處ハ自國ノ領土ト目スヘキ地帶ヲ祕露カ多年ニ亘リ占
據シ居ルニ付之レヲ返還セシメントスルニアレハ祕露ノ言分トハ
大ナル矛盾アリ調停國カ今後如何ナル態度ニ出ツヘキカ双方ヲ承

服セシムヘキ妥協案ヲ見出スコトハ蓋シ難事ナルヘク調停國ノ立場ヨリ見レハ祕露ノ言分ハ相當蟲良キ議論ナルヘキモ果シテ祕露ノ虞レルカ如ク祕露ヲ壓シテ無理ニ全面的ノ調停ヲ強フルヤ否ヤ本問題今後ノ展開注意ニ値スルモノアリ

北米カ伯亞兩國ヲ誘ヒテ本問題ノ調停ニ乘出シ而モ目下ノ處「エクアドル」ノ主張即チ全面的再檢討ヲ押シツケントスル其ノ態度ニ對シテハ祕露ハ相當不滿アルモノノ如ク連日街頭示威運動等モ行ハレ軍^辦内ニハ已ムヲ得サレハ一戰ヲモ辭セストスル強硬論モアル模様ナルモ何如ニセン兵備不充分兵器彈藥不足シ之レヲ補填スル方途モナキ現情ニ於テ而モ「エクアドル」ノ背後ニハ北米アリテ既ニ「エクアドル」ニ對シテハ砲艦二隻ヲ讓渡シ其他機關銃等若干ノ陸上兵器モ供與セリト傳ヘラレ居リ之レニ對シテハ結局祕露トシテハ讓歩スルノ外ナカルヘシト豫測セラル本問題ノ發生以來當國民ノ北米依存熱稍々冷却シ最近ハ米國大使館ニハ見張警

官ヲ増員シ居レル趣ニテモアリ本問題カ歐洲戰爭ヲ對照トスル當
國ノ態度ニ如何ニ影響スヘキカ根本的ニハ左シタル變化ハ望ミ難
カルヘキモ目下差當リ當國ノ輿論ハ極メテ興味アル現象ヲ示シ居
レリ

(二) 軍 事

(イ) 海軍軍令部長渡米ノ件

「ペルー」海軍軍令部長「ロタルデ」少將ハ豫テ米國政府ノ招請ニ依リ渡米ノ趣報セラレ居タルカ四月三十日「ロドリゲス」少佐隨伴「バナグラ」飛行會社ノ定期航空機ニ依リ里馬出發渡米ノ途ニ上レリ北米ハ羅典アメリカ主要國ノ軍令部長ヲ同時ニ招待シ軍備施設其他ヲ視察セシメントスルニアリ曩ニハ米洲各國ノ陸軍參謀總長ヲ招請セルアリ其他新聞記者及軍人等隨時招請居リ此等ノ計畫ハ米國ノ中南米懷柔政策ノ一部ヲ爲スモノト見做シ得ヘシ因ニ同航空機ニ依リ智利軍令部長一行モ北上セリ尙同一行ヨリハ數日遅レ大統領附武官長「メルガル」陸軍少將モ亦北米ノ招請ニ依リ同國ニ向ヘリ

(ロ) 「カイヤオ」海戰七十五周年記念祭ノ件

五月二日ハ西班牙艦隊カ「カイヤオ」砲擊七十五周年ニ相當ス

ル處本年ハ特ニ大統領令ヲ以テ同日ヲ國祭日ト指定シ一般ニ休業シ各種ノ記念祭典ヲ催セリ我國ニ於テハ西班牙カ曾テ中南米諸國ノ母國タリシ關係上今日ニ於テモ兩者ノ關係ヲ國際政局上ニ於テモ相當重要視スル傾向アルカ事實上ニ於テハ今日ノ兩者ノ關係ハ極メテ稀薄ニシテ尠クトモ國際關係ヲ考慮スル場合ニ中南米ノ主要國當事者ニハ西班牙ナルモノハ殆ント眼中ニ置カサル現情ニアル事ヲ知ルヲ要ス西班牙ハ第一次歐洲戰前後「アルフォンソ」十三世ノ最盛時ニハ母國タル自國ヲ中心トシ中南米各國ヲソノ傘下ニ集メ汎米主義ニ對抗スヘキ汎西班牙主義乃至ハ汎羅典米主義ナル運動ヲ起サント試ミタルコトアルモ王朝失墜後内亂反覆國力衰微スルニ從ヒ右運動モ漸次下火トナリ今日ニ於テハ尠クトモ中南米諸國ニ於テハ之レニ耳ヲ籍ス者モナキ現情ニアリ之レニ反比例シ汎米運動ハ逐日強化シ來レリ蓋シ中南米諸國ヨリ西班牙ヲ視レハ之レヲ母國トシテ讚仰センカ爲

ニハ其ノ國力文化ノ程度及相互間ノ通商關係等ハ如何ニモ微弱
ニ過キルモノアレハナリ

(ハ) 英國政府ノ「ペルー」飛行將校招待ノ件

英國内ニ於ケル防備施設及航空事業視察ノ目的ヲ以テ英國政府
ノ招請ニ依リ當國空軍將校二名五月二十六日當地發空路北米經
由訪英ノ途ニツケリ右ハ空軍中佐「ペドロ・グリバ・パナイ」
及同中尉「エンリケ・フリーレル・ダ・コスタ」ノ二名ナリ

(三) 内政關係

重要物資ノ輸出許可制ニ關スル件

當國政府カ軍需物資約三十種類ニ對シ五月八日附ヲ以テ大藏省令ヲ發布シ輸出許可制ヲ布ケル處右ハ米國側ノ使嗟ニ依ルモノト察セラレ且樞軸國ニ對スル輸出禁止ノ前提ト見做シ得ヘシ

(四) 對日本關係

政治季節外ナルト政府カ「アブラ」黨ニ對スル壓迫ヲ加重セルトニ依リ近來對日本及對在留民關係ハ極メテ平穩無事ニシテ新聞ノ排日記事モ殆ント眼立ちタルモノナク宣傳「ピラ」ノ如キ亦跡ヲ絶チ之レヲ客年ノ十一月十二日頃迄ノ状態ニ比スレハ著シク改善ノ兆アリ殊ニ五月十三日ハ排日暴動一周年ニ相當シ在留民ハ萬一ヲ危惧シ居タル向モアリタルモ全然無事ニ經過セリ

第一六號

七月廿二日

秘



海防



米二祕合第二七二六號

昭和十六年七月十二日

陸軍省 第一三九五二號



陸軍次官殿

智利一般政情（五月分）ニ關スル件

本件ニ關シ今般在智利川崎代理公使ヨリ別添寫ノ通り報告越セル
ニ付御參考迄右茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍次官、海軍次官



外務次官



別紙添附



外務省

寫

昭和十六年五月二十九日

在智利

臨時代理公使 川崎 榮治

外務大臣 松岡 洋右 殿

政情報告 (五月) 進達ノ件

本件ニ關シ左記ノ通り進達ス御査閲相成度

一、内政

(1) 共產黨對策等ヲ巡リ與黨中ノ中心ナル急進黨内ニ内訌ヲ續ケ居リタルカ五月廿一日議會開院式モ迫リ表面上ハ一段落ヲ告ケタルモノ、如シ

(2) 議會開院式ハ五月廿一日無事終了セルカ大統領敎書ハ例年ト異内政問題ヲ表看板ニ詳述シ各與黨ノ協力ヲ謝シタルカ本年ハ共產黨ニ對シテハ之ヲ舉ケス一般ニ注目ヲ惹ケリ尙開院

外務省

式前後ニ得タル印象ニ依レハ政情モ反對黨タル右翼等ノ待望ニ不拘割合ニ落着キ居ルモノノ如シ

(ハ)五月十七日新議會上下兩院議長ノ改選行ハレタル結果上院議長ニ「フロレンシオ、デユラン」、下院議長ニ「ベレグリン、メサ」選出セラル、兩人ハ共ニ急進黨ニシテ共產黨トノ協調反對派主流ヲ爲スモノニシテ反共的立場ヲ採レル社會黨ノ投票ヲ得テ何レモ保守黨側候補ヲ破レリ

一 外交

(イ) 秘、惠國境問題ニ關シ米、伯、亞三國カ調停國ト爲レルニ反シ當國カ從來太平洋岸ノ雄邦ト自認シ居リタルニ不拘右調停國ニ入ラス且又事前ニ何等ノ相談ニ與ラサリシコトハ表面的ニハ兎モ角内心當國朝朝ニ對米不滿ノ意ヲ起セルモノノ如シ

(ロ) 十七日當國避難中ノ獨船五隻ハ一齊ニ出港セルカ右ニ關シテハ政府ニ於テ諒解濟ノモノナリシカ如シ尤モ獨逸側ハ「アリ

カ」以南ニ加奈陀假巡四隻右獨船ノ出港ヲ待チ受ケ居リタルヲ知レルヲ以テ多量ノ物資ヲ買付ケタルモ右ノ内若干ハ故意ニ積殘シ突如出港セリト云フ、追テ殘留獨逸船ハ帆船「フリウアル」號ノミナリシ處右ハ其後獨逸政府ヨリ當國政府へ寄贈セルヲ以テ目下當國ニ避難ノ獨、伊船皆無ナリ

(ハ) 徵用丁抹船五隻ハ最近英政府ノ諒解ヲ得テ北米航路ニ從事スルコト、ナレリ尙丁抹政府ハ右報復ノ爲メ同國造船所ニ於テ建造セル智利海軍運送船「アングモス」號ノ引渡ニ應セス當國政府ハ右ニ抗議セリ

(ニ) 目下暮國ニ在ル當國通商使節ハ同國トノ間ニ諸種ノ通商協定竝「アメリカ」鐵道及棧橋ニ關スル對「ボリビア」貸與ノ勸告ヲ採用セルカ右ハ實質上ノ影響ヨリ寧ロ政治的ノ效果ヲ期待セルモノト思考セラレ

(ホ) 本月廿五日ノ亞國々祭日ハ例年ノ夫レト此へ意識的ニ又稍々大袈裟ニ舉行セラレタルカ亞國大使カ「サンマルティン」銅像下ニ於テ當國軍部首腦等ヲ前ニシテ亞國ハ智利ノ獨立ノ爲メニハ凡ユル協調ヲ惜シムモノニ非ラス云々ト演說セルハ一ニ當國ノ對米依存ヲ排シ之レヲ牽制セムトスルニ出テタルモノト思考セララル

(ヘ) 共產黨紙「エル・シグロ」ハ極右紙「インバルシアル」紙ト共ニ先般內相ノ彈壓ヲ受ケタルカ其後再刊シ內政的ニハ內相及米側ト通謀セル社會黨「ジュナケ」派（勸業相）ヲ攻撃シ對外的ニハ米國ノ帝國主義政策竝羅米諸國ノ參戰卷込反對ヲ執拗ニ強調シテ止マス當國ニ於ケル共產黨ノ勢力増大ハ米ノ對智工作ノ癩ナリ

(ト) 五月廿七日「ル」大統領談話ニ對シテハ一般ニ表面的ニハ已ムヲ得サルモノトシテ好意ヲ示シタルカ右ノ程度ハ必スシモ

積極的ナラス目下當國ノ重要問題ナル經濟的援助實行ヲ伴ハサル此種言論ニ對シテハ極メテ一般ニ冷靜ニシテ北米ノ希望スルカ如キ反響認メラレス寧ロ右演說ニ贊成スル氣持ヨリ米參戰傾向ノ濃化ニ依リ當國一般ニ之レニ依ル惡影響ヲ恐怖スルカ如キ反響アリタルモノノ如シ

三、經濟

(イ) 米ノ參戰氣味ハ當國市場ニモ鋭敏ニ反響シ當國財界ニ何等好況ノ因トナルモノ無キニ反シ對米爲替(闇相場)ハ續騰シ一弗三十ペソヲ唱へ銀行爲替之レニ追從スルノ奇現象ヲ程シ居レリ尙政府ハ對米爲替ヲ一弗二十五ペソニ引下クトノ噂スラ流布シ居レリ

(ロ) 物資殊ニ「セメント」石炭等工業資材不足シ政府ノ企圖セル生産力擴充ハ仲々緒ニ着カス列車數ハ益々漸減スルノ己ムナキニ至リ爲メニ農産物出廻ニモ圓滑ヲ缺キ首府附近物價高ニ

拍車ヲ掛ケ居レリ

(ハ) 他方政府ハ一時ヲ糊塗スル爲メ中央銀行ヲシテ四億ペソノ紙幣限外發行ヲ許可スヘシトノ噂スラアルカ右實施セララルニ於テハ「インフレ」ハ必然ナル可シ

(ニ) 對外貿易ハ船舶不足ノ爲メ活潑ナラス殊ニ硝石及農産物ノ滞貨ヲ増シ北部硝石地帯ニ於テハ操短ヲ己ムナクセラレ居ル工場漸増失業問題加重ノ懼レアリ

(ホ) 米系首府市電ハ従業員賃銀値上要求ニ對シ政府カ運賃値上ヲ認メサル爲メ月始メヨリ總罷業ニ入レルカ結局三日間政府當局ニ於テ經營ヲ引受ケ收支決算ヲ見テ何分ノ決定ニ至ルヲ條件トシテ罷業四日間ニシテ一時解決セリ

以
上

陸普

副官より航空局長官へ

通牒

六月二日附空補第_二八號ニ係ル首題ノ件

ハ陸軍航空本部長ヲシテ調辦方取計ヲ

ハシメラルルニ付承知相成度

陸普第五五二七號 昭和拾六年七月廿壹日

陸普

副官より陸軍航空本部長へ 通牒

首題ノ件ニ関シ別紙ノ通願出アリタルニ付

調辦方取計ヲハレ度依命通牒ス

陸普第五五二七號 昭和拾六年七月廿壹日



秘

航空



大日本帝國政府

有添付

陸軍省第一課第二課内田中佐經由

航空本部第二課内田中佐經由

昭和十六年六月二日



航空局長

陸軍次官殿

航空器材（完備機關係）委託調辨ニ關スル件

首題ノ件昭和十六年度當局航空機乘員養成所並大日本飛行協會、朝
由新聞社、東京日日新聞社、讀賣新聞社、同盟通信社ニ於ケル緊要
器材トシテ左記ノ通調辨致度ニ付御繁忙中洵ニ乍恐縮特ニ御配慮相
煩度及依頼候也

追而大日本航空株式會社所要器材ニ關シテハ別途調辨方委託可致
ニ付御了承相成度

記



大 日 本 帝 國 政 府

一、品目並員數

別紙其一ノ通（當局養成所關係）

別紙其二ノ通（民間關係）

二、入手希望期日

別紙其三ノ通

三、納入場所

一、養成所關係

中央航空機乘員養成所

千葉縣東葛飾郡高木村

仙台地方航空機乘員養成所

宮城縣宮城郡七郷村

米子

鳥取縣米子市兩三柳

印旛

千葉縣印旛郡船穂村

新潟

新潟縣北蒲原郡松ヶ崎濱村

熊本


熊本縣菊池郡合志村

二、民間關係

大日本飛行協會

立川飛行機株式會社（工場渡）

大日本帝國政府

一六七七別除
 郵政省


朝日新聞社

東京市蒲田區羽田江戸見町 (羽田朝日格納庫)

讀賣新聞社

東京市世田ヶ谷區大塚町多摩河原 (玉川讀賣格納庫)

東京日日新聞社

東京市蒲田區羽田江戸見町 (羽田日日格納庫)

同盟通信社

全 右 (日航羽田格納庫)

四 經費支辨

1. 養成所關係 航空局拂

2. 民間關係 當該箇所拂

五 契約事項

1. 本件契約ハ凡テ貴省契約様式ニ據ラレ度

但シ代金支拂ハ物品完納後トセラレ度

2. 本件經費ハ豫算ノ性質上年度内ニ物品完納竝代金支拂ヲ完了

スル如ク契約セラレ度

尙契約者代理人タルトキハ委任狀添付相成度

大日本帝國政府

六前諸項以外ニ於テ疑議ヲ生シタル場合ハ航空局第二部補給課ニ連絡相煩度

